

平成 29 年度
【短期研究 2】

トラウマインフォームドケアに関する文献的考察

(要旨)

近年わが国では、子どものトラウマ治療に関するいくつかの治療プログラムが紹介され試行的に実施されるようになった。当センターにおいても、子どものトラウマへの第一選択治療とされているトラウマフォーカスト認知行動療法（Trauma-Focused Cognitive Behavioral Therapy, TF-CBT）の有効性についての臨床研究を実施しており、また数箇所の医療機関や児童相談所と連携しながら、様々な枠組みにおけるTF-CBTの適用についての研究に取り組んでいるところである。一方、児童福祉領域では、児童虐待の相談件数が激増しており、これらのケースに対する行政的処遇対策については、法律改正や支援体制整備などの観点から改良が重ねられてきているものの、トラウマ治療の観点からの支援体制は立ち遅れていると言わざるを得ない。

このような状況の中で、最近国際的にもコンセンサスを得つつあるトラウマインフォームドケアは、本人と家族にトラウマに関する情報を提供することによって回復の意欲を高めようとするトラウマ支援の基本概念であり、どのような現場においても、また、どのような職種の支援者であっても容易に提供できることが利点であるとされている。本研究では、トラウマインフォームドケアについて文献的に考察し、その歴史的背景や、さまざまな領域における応用方法などを明らかにした。

研究内容は、総説として精神神経学雑誌120（3）；173－185，2018に発表した。

研究体制：

亀岡智美、加藤 寛

研究協力：

瀧野揚三、岩切昌宏、中村有吾（大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター）

野坂祐子（大阪大学大学院人間科学研究科）